

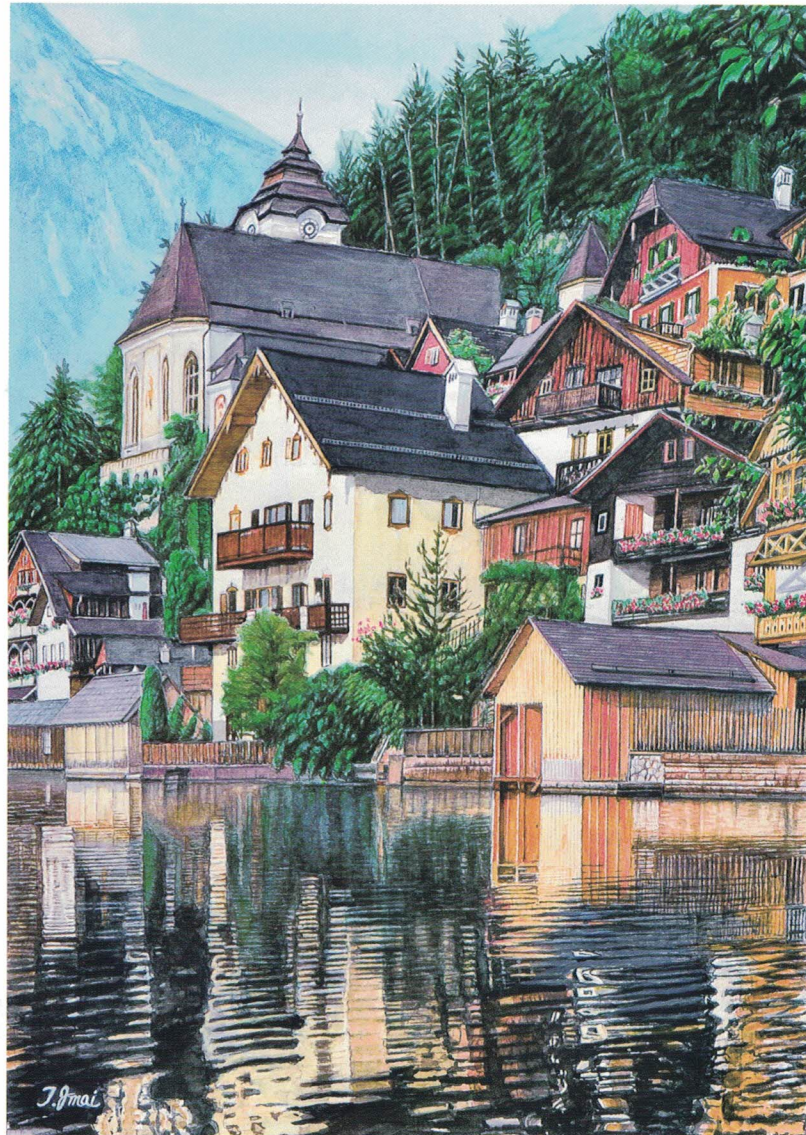
札幌通信

THE JOURNAL OF
SAPPORO MEDICAL ASSOCIATION

1

2019.1.20
No.617

癸 正



新春随筆



一般社団法人 札幌市医師会

E-mail ishikai@spmed.or.jp

Homepage <http://www.spmed.jp/>

病院でアート ～待合室がギャラリーに変身！～

豊平区支部 志田 勇 人

新年あけましておめでとうございます。また昨年、北海道胆振東部地震により被災された皆さまにおきましては謹んでお見舞い申し上げます。

この度、札医通信の執筆依頼のお話をいただきましたのでこの機会をお借りして当院で10年前より行っている「びょういんあーとぷろじえくと」について書かせていただきたいと思います。2008年秋に始まったこの企画は長く臨床美術に取り組み、作業療法的なアプローチで高齢者や不登校の子どもたちの作品制作を支援してきた作家の日野間尋子さんと当院職員との縁から企画が発案されました。当時の医療機関は絵画や彫刻作品の常設程度で企画展はまれでしたが、最近はアートによる癒しへの関心が高まり病院とアートの距離は少しずつ近づいています。今回は今まで当院で開催された12回の展示の中からいくつか写真（カラーでご紹介できないのが残念ですが・・・）と共にご紹介させていただこうと思います。



日野間さん（前列中央）とびょういんあーとぷろじえくとメンバーの皆さん

～第5回「明日は晴れ」

2011年1月19日～2012年3月31日～

第4回までは個々の展示が独立した形となっていましたが、この「明日は晴れ」では待合ホール全体がひとつの作品として見てもらえる展示に変わりました。壁だけでなく天井にもカラフルな人型と星型の凧を配置しダイナミックな展示になりました。制作者は北の峰学園（富良野市）の施設利用者さんで、等身大の人型（色は青や緑などさわやかな色合い）は実際に横になった人の輪郭をなぞったものだそうです。「『かたち』を眺めてい

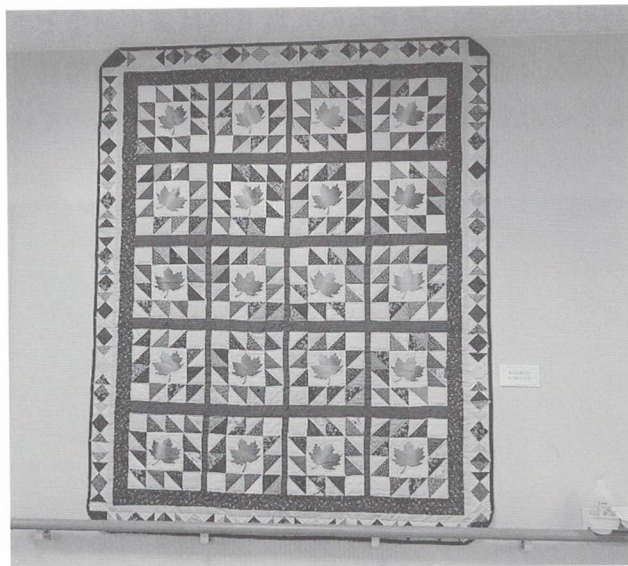


ると、その人その人の優しさと純粹さが、より鮮明に現れてくるようです」と日野間さんはこの展示について語っていました。

～第7回「毎日の生活を織るアート；キルト」

2013年9月17日～12月27日

日野間さんの知人で長年キルト制作をしている川野エレンさんの作品を展示していただきました。エレンさんの人柄が伝わってくるようなぬくもりのあるキルト作品は、絵画とはまた違った魅力を持っていました。遠くから見ると幾何学的な紋様であるのが近くで見ると様々な柄の布で構成されており、見るほどに新たな発見がありました。



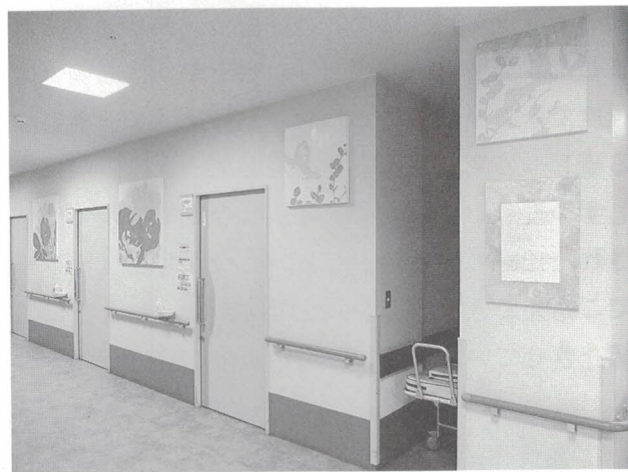
～第9回「まどの向こうに」

2015年5月20日～10月31日～

道内外で活躍中の女流画家 山田恭代美さん、前川アキさんに『まど』をテーマに作品を展示していただきました。強い光や原色の花など生命力にあふれる風景やぼんやり眺めていたいような柔らかな景色を病院の建物の中から窓越しに感じるような展示となり、普段外出の出来ない患者さんにとってはまさに窓越しに異世界を感じるような展示となりました。「アートから‘自然’の持つ力強さや生きる力、大きく温かく包みこんでくれ

る包容力を感じていただければ幸いです」と日野間さんは語っていました。

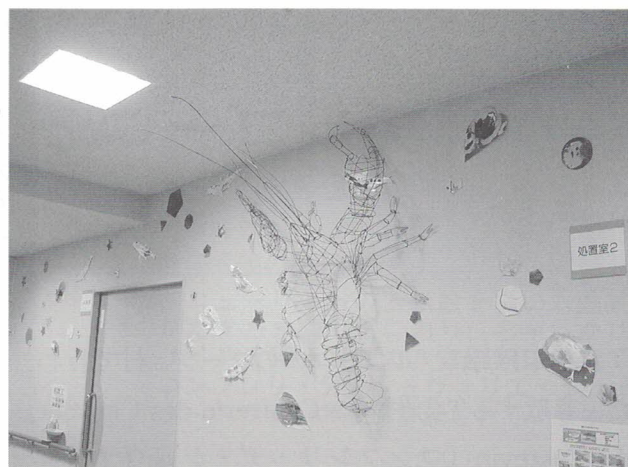
また地域の方々にとってもこの展示がアートとの世界をつなぐ『まど』となりました。



～第11回「光と風と水をまとめて」

2016年9月5日～12月27日～

現役の臨床工学技士でもある美術家の佐藤隆之さんが切り紙で制作したカエルや鯉、またワイヤーで立体的に作られたザリガニなど迫力のある展示となりました。代表の日野間さんは「表現したかったのは、いきいきとした生命力」とのこと。まさしく壁一面に飾られた色とりどりの生物たちは今にも動きそうな躍動感を備えており、療養している患者さんなどにも大きな力を与えてくれる展示となりました。



このように当院はこの10年間「びょういんあーとぷろじえくと」を通じてアートが持つ癒しの力を実感するとともに患者さんのみならずご家族や病院職員、地域の方々に少しでも明るい気持ち、安らかな気持ちになっていただけたらという思いをもって日々の診療を行ってきました。より良い医療サービスを提供するにあたり我々医療者も豊かな心で患者さんに接することが重要と考えております。そういった中でアートのある空間は患者さんのみならず職員にとっても忙しい診療の中での癒しにもなっています。色鮮やかで心がワクワクするような作品によって以前はシンプルだった

待合室が明るく温かみのある空間に変わりました。またこれらの展示作品を見るために来院して下さる地域の方もおり、アートを通してのコミュニケーションの機会も増えました。今後もこのような試みを続けて少しでも地域の癒しの場やコミュニティの場を提供できればと考えています。

(札幌ライラック病院)

「びょういんあーとぷろじえくと」ホームページ
<http://www.hinoma.com/hospitalart/>